

基本目標

5

# 「地域づくり」分野

---

みんなでつながり地域が  
生き生きと輝くまち



17 ひと・地域



目指す姿

市民が、生涯にわたって主体的に学び、  
地域づくりに積極的に取り組むまち

現 状

- ▶ 市内各地区で、住民主体の地域運営や地域づくり活動が行われており、地域の課題解決に向けた新たな取り組みが見られます。
- ▶ 生活様式と価値観の多様化などにより、地域の連帯感が希薄になってきており、自治会などの活動に参加する人が減っています。
- ▶ 核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育ての知恵や経験を家族や地域で共有する機会が少なくなっています。
- ▶ 自治会や団体においては、担い手の減少や高齢化などにより活動力が低下し、存続そのものが危ぶまれています。
- ▶ 地域の活性化や課題解決、住民同士の世代を超えた交流を進める事業に支援しています。
- ▶ 高齢者を地域で支える仕組みをつくるため、生活支援体制整備事業<sup>62</sup>が進められています。
- ▶ 男女共同参画の精神と人権を尊重する心を育て、性別に関わりなく誰もが輝くことのできる社会の実現を目指して、地域団体と連携しながら、市民への啓発活動や学習活動を行っています。
- ▶ 図書館は、本を借りるだけでなく、人との出会いやふれあいの場として、さまざまな年齢層の市民に利用されています。
- ▶ 近年、大野市内において外国人居住者が増加しています。

課 題

- ▶ 人口減少や少子化・高齢化により、社会奉仕作業や伝統行事などの地域活動の継続が困難な自治会が増加しているため、地域の活動や仕組みを検討する必要があります。
- ▶ 人や地域のつながりを大切にしながら、地域の関係団体との協働により、若者や女性など多様な人材を確保し、活力のある地域を次世代につなげていく必要があります。
- ▶ 地域ぐるみの活動や世代間交流を促し、地域全体で子どもを育てる活動や高齢者の見守り活動を進める必要があります。
- ▶ 性別による固定された役割意識や社会慣行がいまだに残されているため、男女が対等に生きる意識と社会環境づくりが必要です。
- ▶ 公民館は、社会教育施設としてだけでなく、地域の課題解決に向けた拠点としての機能が必要です。
- ▶ 図書館は、幅広い年齢層に応じた図書の実質を豊かにするとともに、世代を超えて交流ができる事業を実施する必要があります。
- ▶ 国や県においては多文化共生社会の実現に向けた取り組みが進められており、大野市においても関係機関と協働して事業を実施し、地域在住の外国人との相互理解を進める必要があります。

<sup>62</sup>生活支援体制整備事業：高齢者の多様な日常生活を支える仕組みを充実させること、生きがいや介護予防につながる社会参加の機会を確保するため、生活支援コーディネーターを中心に、住民主体の話し合いの場である協議体（公民館単位の第2層協議体と、市単位の第1層協議体）を設置し、支え合い・助け合いの地域づくりを推進する事業です。

## 施 策

### 1 地域を担う人づくりや生涯学習を推進します

- ①若者や女性をはじめ、より多くの人たちの地域活動への参加を促し、地域に必要な人材を育成します。
- ②公民館の行事や講座、地域団体の活動を通し、世代間交流を図ります。
- ③住民主体の地域づくりを一層進めるため、地域ごとの課題解決に向けた検討や既存の地域を運営する組織の見直しに対する取り組みを支援します。
- ④誰もが、生涯を通して時代に即した学習が行えるよう、生涯学習センターや公民館、図書館などが一体となって情報を発信し、学習の機会を提供します。
- ⑤大野市男女共同参画プランや大野市人権施策基本方針に基づき、市民への啓発活動や学習活動などを行い、男女共同参画の社会を推進し、人権を尊重する人づくりに取り組みます。

### 2 地域での交流を深め、支え合いを広げます

- ①地域の活性化や課題解決、住民の世代間交流などを進める事業を支援します。
- ②地域による登下校の見守り活動を行うとともに、地域ならではの行事への参加や自然との触れ合いなど、子どもたちの人や自然と関わるさまざまな機会をつくります。（再掲）[2：学び3-③]
- ③隣近所の見守りや声掛け、移動支援、買物支援、雪下ろし支援など、地域で暮らしていくための支え合いの仕組みづくりを進めます。（再掲）[4：地域福祉2-②]
- ④同じ地域内での交流だけでなく、他の地域や他の市町と交流する機会を創出します。
- ⑤国際交流活動を通じて国際感覚を養うとともに、地域在住の外国人との相互理解を深め、多文化共生社会の実現を目指します。

### 3 地域住民が利用しやすい活動拠点をつくります

- ①地域づくりや生涯学習の拠点として、働く世代や子育て世代などあらゆる世代が公民館を利用できるよう運営方法を工夫し、地域住民が気軽に集うことができる身近な公民館とします。
- ②身近な地域活動の拠点である各自治会の集会施設の整備支援を行い、コミュニティ活動の拠点確保を進めます。
- ③図書館の蔵書の充実を図り、市民の学習や情報収集へのニーズに対応します。

## みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①地域の活動に楽しんで参加します。
- ②近所で日常的な声掛けを行います。
- ③男女に関係なく、地域や団体の役員を引き受けます。

## 成果指標

指 標	内 容	令和元年度 現 状	令和7年度 目 標	単 位
公民館利用回数	市民1人当たりの年間公民館利用回数（他所で行った公民館事業参加者数を含む）	3.61	3.66	回
図書館利用回数	市民1人当たりの年間図書館利用回数	2.98	3.2	回
検討会の開催	地域課題解決に向けた住民主体の検討会を開催した地区	—	9	地区

## 関連する個別計画

- ・ 教育に関する大綱
- ・ 結の故郷ふるさと教育推進計画
- ・ 大野市男女共同参画プラン



## 18 防災力・防犯力



目指す姿

## 地域の防災力・防犯力が高まり、 災害や事故に備えた体制が整ったまち

## 現 状

- ▶ 気候変動により、全国で豪雨による河川の氾濫や土砂災害が多発しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大が避難所の運営体制に影響を及ぼしています。
- ▶ 消防団員の高齢化や減少が進む中、各種災害に対応できるよう資器材の整備や教育訓練の充実に努めています。
- ▶ 100人体制の結の故郷女性分団では、女性の持つソフトな面を生かした活動を行っています。
- ▶ 大野市における自主防災組織<sup>63</sup>の結成率は、令和元年度末で96.6%となっています。
- ▶ 犯罪や事故を未然に抑止するため、防犯隊や安全で安心なまちづくり推進会議による夜間の防犯パトロールや啓発活動を実施しています。
- ▶ 高齢者が当事者となる交通事故の割合が高く、シートベルト装着義務違反者の割合は県内市町の中でも高くなっています。
- ▶ 幅広い年齢層にスマートフォンの利用が普及しつつある中で、情報通信に関わる消費者相談が増加しているほか、特殊詐欺などの被害やハガキによる架空請求の相談も依然として多くなっています。
- ▶ 人口減少や高齢化の進行により管理不全な空き家が増加しています。

## 課 題

- ▶ 自然災害から市民の生命を守るため、地域においても防災力を強化する必要があります。
- ▶ 災害時における関係機関の連携体制を強化して避難所を整備するとともに、各地区の自主防災組織や各種団体などでも、感染対策を講じた避難や避難所の運営について、訓練する必要があります。
- ▶ 避難支援プラン<sup>64</sup>の作成が進んでおらず、地区住民や要支援者の意識を高める必要があります。
- ▶ 犯罪や事故を防止するための取り組みを継続していく必要があります。
- ▶ 横断中の歩行者の保護や、飲酒やおおりなどの危険運転の防止など、交通ルールの遵守と自動車の運転マナーの向上について、啓発する必要があります。
- ▶ 児童や若年層、高齢者などあらゆる年代に消費者教育を行う必要があります。
- ▶ 所有者や管理者の当事者意識を高めることで空き家の発生を抑制し、空き家となった場合には、売却譲渡による有効活用や解体の手続き、処理を促す必要があります。

<sup>63</sup>自主防災組織：住民が自治会や地域ごとに協力して、地域ぐるみで防災活動を行うための組織です。日頃から災害に備えたさまざまな取り組みを実践するとともに、災害が発生した際には被害を最小限に食い止めるための活動を行います。

<sup>64</sup>避難支援プラン：災害時に1人で避難することが困難な避難行動要支援者に対して、地域（自主防災組織または自治会）の協力のもと個別に作成する支援計画です。地域で避難の支援が迅速に行えるよう、平常時から、緊急連絡先や避難時に配慮すべき内容、支援者などについて定めます。

## 施策

### 1 地域における防災力の充実と強化を図ります

- ①自主防災組織の防災訓練などを通じ、消防団と自主防災組織とのつながりや連携を強化します。
- ②総合防災マップ<sup>65</sup>を市民に周知し、自主防災組織の地区防災計画作成を促進するとともに、自主防災組織や自治会が要支援者を安全に避難誘導するため、避難支援プランの作成を促進します。
- ③感染症対策を講じた避難や避難所の運営方法について訓練を実施します。
- ④女性消防団員の優しさやきめ細かさを生かし、高齢者世帯への防火訪問など、地域に密着した活動を行います。

### 2 犯罪や事故を防止します

- ①防犯隊や安全で安心なまちづくり推進会議による夜間の防犯パトロールや啓発活動を継続して行います。
- ②市民が消費者被害に遭わないよう、学校や地区、団体などを通して啓発活動を行います。
- ③幼児や児童、高齢者を対象にした交通安全教室や講座などを充実します。
- ④大野市交通指導員による街頭啓発や交通安全パトロールを実施します。

### 3 空き家などの対策を推進します

- ①土地や建物の所有者に対し、空き家の発生抑止と適正な管理指導を徹底します。
- ②民間事業者と連携し、空き家の売却や譲渡、解体などを促進します。

## みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①災害に備え、備蓄品の準備や避難場所の確認を行い、地域の避難訓練に参加します。
- ②防犯に対する意識を高め、住居や自動車、自転車の施錠や近所への声掛けなどを行います。
- ③正しい交通マナーを実践します。

## 成果指標

指 標	内 容	令和元年度 現 状	令和7年度 目 標	単 位
自主防災組織の活動	結成した自主防災組織の活動割合	20.0	100.0	%
総合防災マップ説明会の開催	総合防災マップ説明会の開催地区の割合	2.0	100.0	%
刑法犯認知件数	市内の刑法犯年間件数	77	70以下	件
存在する特定空家等 <sup>66</sup> の件数	存在する特定空家等の件数	16	0	件

## 関連する個別計画

- ・大野市地域防災計画
- ・大野市避難行動要支援者の避難支援プラン作成計画
- ・越前おおの空家等対策計画

<sup>65</sup>総合防災マップ：国や県が公表した洪水浸水想定区域図や水害リスク図に基づき、令和2年10月に大野市が作成したハザードマップのことです。浸水が予想される区域や浸水の深さ、浸水が続く時間を記載しているほかに、避難所の一覧や避難行動の目安、避難をするために必要となる情報やその情報の入手先、緊急連絡先および避難時の備えと対策（非常持出品・風水害対策）などを記載しています。

<sup>66</sup>特定空家等：そのまま放置すれば倒壊などの著しく保安上危険となるおそれのある状態、または、著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態の空家等のことです。

## 19 文化芸術



## 目指す姿

市民が文化や芸術に親しみ、文化財や伝統文化が継承され、郷土の歴史や文化の魅力が発信されているまち

## 現 状

- ▶ 文化会館は、耐震性の問題が指摘されているとともに、空調や舞台照明などの設備の経年劣化が著しく進んでいます。
- ▶ 市民が所有する優れた絵画などを活用するとともに、イベントなどを通して大野市にゆかりのある芸術家に触れる機会を創出しています。
- ▶ 市美展や文化祭の実施、市民が行う文化活動への支援などを通して、人材育成と文化振興を図っています。
- ▶ 郷土の歴史や文化財、伝統文化を地域の魅力として利活用しようとする動きがみられます。
- ▶ 伝統文化の担い手や文化財の管理者が減少しており、保存継承が困難になりつつあります。
- ▶ 大野市には古生代から中生代のさまざまな地層が広く分布し、国際的に重要な研究フィールドとなっています。

## 課 題

- ▶ 文化芸術を振興するための拠点が必要です。
- ▶ 市民の文化活動の底辺を拡大するために、文化芸術に触れる機会の充実が必要です。
- ▶ 伝統文化の継承や文化財の維持管理のための取り組みが必要です。
- ▶ 国内外から注目されている大野市の地質や化石をさらに多くの方に知ってもらうため、関係機関や関係団体と協力した調査研究と保護に向けた取り組みが必要です。



## 施策

### 1 文化芸術の振興と継承を推進します

- ①文化水準の向上を目指し、文化活動の拠点となる新たな文化会館の整備について検討を進めます。
- ②市民が気軽に参加し、文化芸術に触れることのできる機会を創出します。
- ③市民の文化芸術活動への支援を引き続き行い、文化芸術の振興を促進します。
- ④地域の伝統行事や伝統芸能、伝統料理などを子どもたちに伝える活動を推進します。  
(再掲) [2：学び3-④]
- ⑤市内に所在する国や県、市の指定文化財などを良好な状態で後世に伝えるため、所有者や管理者の負担軽減を図ります。
- ⑥「大野市文化財保存活用地域計画」を策定し、計画に基づいた文化財の保存と活用を推進します。

### 2 文化遺産・自然遺産<sup>67</sup>を保護し活用します

- ①文化財を保存継承するために、新たな文化財の発掘に努め、指定文化財などの増加を図ります。
- ②化石を産出する地層や淡水型イトヨとその生息環境などの自然遺産を保護し活用するため、研究機関と協力して調査研究と活用を進めます。

### 3 郷土の歴史や文化の魅力を発信します

- ①博物館などにおいて、展示や講座、講演会などを開催し、郷土の成り立ちや文化財、伝統文化に対する市民の理解を深めます。
- ②郷土の歴史や文化財、伝統文化を市内外に発信します。

## みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①一人一人が大野自慢を持ちます。
- ②市外の人にも祭りや伝統文化を楽しんでもらえるよう働き掛けます。
- ③市内で開催される美術展や音楽会、講演会などを見たり聞いたりします。

## 成果指標

指標	内容	令和元年度 現状	令和7年度 目標	単位
公演などの参加人数の割合	人口に対する市が主催および支援する文化公演の年間参加人数の割合	37.5	45.0	%
博物館などにおける企画展や講座開催数	博物館などにおける企画展や講座開催数	3	5	回

## 関連する個別計画

- ・教育に関する大綱
- ・大野市文化会館整備基本構想
- ・大野市文化会館整備基本計画
- ・大野市文化財保存活用地域計画

<sup>67</sup>文化遺産・自然遺産：『文化遺産』や『自然遺産』、『複合遺産』は、本来、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」で定められているものですが、ここでは文化財保護法に定める「文化財」を『文化遺産』とし、『自然遺産』は、世界遺産に登録されるための4つの評価基準でもある「地形・地質」「生態系」「自然景観」「生物多様性」を満たすものとしています。

## 20 移住定住



目指す姿

「大野に住みたい、住み続けたい」という人が増え、  
移住者を受け入れる環境が整ったまち

## 現 状

- ▶ 移住に必要とされる就業や教育、住宅などの担当者が集まった越前おおの！JUサポートチーム<sup>68</sup>会議で、移住希望者の情報共有や、きめ細かなサポートを行っています。
- ▶ 農作業体験や先輩移住者との交流、お試し暮らしなど、移住希望者の要望に添った移住体験を実施しています。
- ▶ 移住定住サイト「オオノグラシサイト」で市の移住定住に関する情報を発信し、年間約3万件の閲覧があります。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、大都市圏への人口集中の脆弱性が改めて顕在化し、地方回帰への関心が高まっています。
- ▶ 人口減少が進む中、定住促進に向けて、移住者の住宅取得やリフォームに対し助成しています。
- ▶ 定住のための住宅取得支援については、新築住宅に対する助成は需要があるものの、空き家の取得やリフォームに対する助成件数は年々減少傾向にあります。

## 課 題

- ▶ 地方回帰への関心が高まっているものの、大野市にはまだ十分に波及しておらず、大都市圏在住者に大野市に関心を持ってもらうための情報発信が課題です。
- ▶ 人口減少により空き家の数は増えていますが、空き家情報バンクへの登録物件は少なく、制度を周知する必要があります。
- ▶ 定住促進に向け、優良な空き家の効果的な利活用を促す必要があります。
- ▶ 移住者と住民との交流がうまくいかず、定住につながらないことがないよう、移住後のサポートを行う必要があります。

<sup>68</sup> JUサポートチーム：大野市への移住定住を希望する人や移住した人をサポートするための大野市役所内の専門チームです。

## 施策

### 1 住まいや仕事の確保を支援します

- ①Uターン<sup>69</sup>を希望する人に対し、きめ細かな相談体制を確立します。
- ②有効活用できる空き家物件の掘り起こしと空き家情報バンクへの登録を促進し、空き家の利活用を図ります。
- ③移住や定住の希望者の住宅取得やリフォームに対し支援します。

### 2 地域での受け入れ環境を整えます

- ①移住者を受け入れる体験会や交流会を行う地区に対し支援します。
- ②移住後のサポートとして、地域住民との交流会を開催し、出会いと情報交換の場を提供します。
- ③大野市で地域おこし協力隊として活動してきた隊員が定着できるようサポートします。

### 3 大野の魅力を伝えます

- ①高校生や大学生に大野市のSNS登録を推奨し、「大野へかえろう」と思ってもらえる情報や県内の企業情報などを発信し、大野市への定住を促進します。
- ②大都市圏在住者が、「新しい生活様式」に添った大野市での楽しい生活がイメージできるよう情報発信を行うとともに、大野市に実際に来て、大野の良さを体験できるよう移住体験メニューの充実を図ります。
- ③県や他市町と連携し、大都市圏で大野市の魅力や移住定住施策を発信するとともに、オンラインを活用した相談体制を整え、きめ細かなサポートを行います。

## みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①市外から来られた人を「結の心」で受け入れます。
- ②大学などに進学した家族に、地元企業の魅力や暮らしやすさを発信します。
- ③大野に住む者自身が、大野を愛し大切にします。

## 成果指標

指標	内容	令和元年度 現状	令和7年度 目標	単位
定住のための住宅取得等助成件数	定住のための住宅取得及びリフォームに対する助成件数（累計）	—	50 (R3～7年度累計)	件
総人口に対する20～40代人口の割合	総人口に対する20～40代人口の割合	29.5	29.5	%
移住相談件数	IJUサポートチームが受けた移住相談件数（累計）	—	500 (R3～7年度累計)	件

<sup>69</sup>Uターン：UターンとIターンのことで、Uターンとは、進学や就職などの理由で出身地から都市へ移住した後、再び出身地へ移住することで、Iターンは、出身地以外の場所に移住することです。

— 第3編 —

前期基本計画